

委員長のあいさつ

教科書的に地域福祉活動計画は、その計画をつくる過程こそが重要で、そこに住民や多くの関係者が結集し、議論を重ねていくなかで計画を策定していくものといわれています。神奈川区地域福祉活動計画の2年間における策定は、まさにこの言葉通りの歩みであったと思います。

「情報・人材・連携」というテーマを中心に、81回の会議が開催され、約1,300名もの方が主体的に参加しました。そこで出会い、話し合い、交流し、そして多くのつながりができたのです。そのなかで確認できたことは、この神奈川区にこだわり、住み続けたいと願う多くの人たちの存在でした。また神奈川区をより住みやすい地域にしていきたいと活動している人たちの存在でした。

したがって本報告書は、本計画に係わった方々の声が集約されたものとなっています。しかし本計画はこれからが、大切な取り組み段階となります。この計画が真に実効性のあるものと発展させていかなければなりません。その意味から、この計画に係わった方々には、引きつづき、この報告書の内容をそれぞれの立場において具現化していただきたくお願い申し上げます。

最後に、本計画に参加して頂いた神奈川区民の皆様、関係者の皆様に御礼を申し上げます。

神奈川区地域福祉活動計画策定委員会委員長 高山直樹



目次

活動計画はなぜ作るの？	2ページ
活動計画5つのポイント	3ページ
みんなが一歩をふみ出すために	4ページ
計画の見方	5ページ
活動計画	
事業目標1	6ページ
【サービスを利用するための必要な情報が蓄えられています】	
事業目標2	8ページ
【誰もが利用しやすい情報伝達のしくみがあります】	
事業目標3	10ページ
【お互いの立場を尊重しながら情報が交換され、地域の課題が共有されています】	
事業目標4	13ページ
【一人ひとりが地域の一員であるという意識を持っています】	
事業目標5	14ページ
【一人ひとりのできることが活かされる仕組みになっています】	
事業目標6	15ページ
【地域活動団体・組織が目標を達成するために、日々成長しています】	
事業目標7	17ページ
【地域活動団体・組織を支援する仕組みがあります】	
推進体制	20ページ
策定までの経過	21ページ
策定委員会・作業部会・分科会メンバー紹介	29ページ
策定にご参加いただいた団体・施設一覧	31ページ
あとがき	33ページ
追加配布申込FAX用紙	34ページ